

地域の人々とつくる『渋川ESDミュージアム』

実践事例について

全学年が、地域のくらしや自然をテーマに環境学習に取り組んでいる。草津市が推進する地域協働校事業を活かし、地域の様々な世代の人々に教わりながら学習を進めている。その学習成果をまとめて、地域の「ふれあいまつり」の日に合わせて、校舎内に「渋川ESD(いいまち 渋川 だいすき)ミュージアム」を開館し、地域の人々に発信している。

1 本校の環境教育について

(1) 重視するポイント

本校の環境教育のポイントは、持続可能な発展のための教育、ESDの視点に立った環境教育のプログラム開発を進めていることである。ESDの視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。

(2) 3つの「つながり」について

ア 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるように、ESDカレンダーを作成し実践している。ESDカレンダーとは、1年間の教育活動の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。

イ 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするかという課題のもと、授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で世代を越えた地域内外の人との「つながり」も積極的に取り入れている。

ウ 能力・態度の「つながり」

単に体験を通して地域のくらしや自然について調べるだけではなく、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたり、行動に移したりする態度の育成を目指している。

【事例①】「滋賀の郷土料理学習」

(1) 郷土料理について調べる活動

- ア 昔の渋川を描いた絵図「渋川風景の記憶絵」を見ながら、どんな郷土料理があるのかを調べる計画を立てる。
- イ 滋賀の郷土料理の調べ学習をして、わかったことを新聞にまとめる。
- ウ 地域の人々に教わりながら、郷土料理(梅干し、お味噌など)を作って食べる体験をする。
- エ 郷土料理に関する話を聞く。郷土料理の専門家や、農家の方から、料理作りや食材に対する思いを伺う。



滋賀の郷土料理博物館

(2) 郷土料理のすばらしさを伝える活動

ESDミュージアムと同時開催で、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。

(3) 成果

郷土料理には、地元の食材を美味しく食べるために気候を上手に利用する先人の知恵がたまっていることに気づいていった。そして、郷土への愛着や誇りを高めることができた。

(4) 課題

調理体験や出会いの場を設定するために関係者との打合せ等の時間を確保することに難しさがある。

【事例②】「世界農業遺産学習」

(1) 滋賀の農林水産業について調べる活動

滋賀県では、琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業を世界農業遺産に登録しようという動きがあることから、その魅力に迫る学習を実施した。3つのクラスが、それぞれ滋賀の「農業」「林業」「漁業」に分かれて調べ学習を行った。

ア 農業に学ぶクラスでは、環境こだわり農産物やゆりかご水田の取組から学んだ。

イ 林業に学ぶクラスでは、山と人のくらしのつながりや鹿害から山を守る取組から学んだ。



猟師から鹿害について学ぶ

ウ 漁業に学ぶクラスでは、湖の環境保全や伝統漁法、ビワマスの養殖の取組から学んだ。

(2) 滋賀の農林水産業の魅力を伝える活動

ア 滋賀の郷土料理博物館を開館し、滋賀の農林水産業の魅力を紹介した。また、国内巡回展を開催し、県外でも展示を実施した。

イ テレビ会議システムを使って県外に滋賀の魅力を伝えると共に他地域の郷土料理に学ぶ交流を積極的に実施した。これまで、北海道、福島、東京、千葉、長野、愛知、三重、奈良、大分、熊本、沖縄と交流することができた。



福島県飯舘村との遠隔授業

ウ 「渋川小世界農業遺産シンポジウム」を開催し、それぞれのクラスが「農業」「林業」「漁業」の魅力を発表し合った。最後に学年全体で「子ども環境会議」を開催し、滋賀の農林水産業の未来について意見を出し合い、考えを深めた。この模様はテレビ会議システムを使って、東京、三重、佐賀など国内7カ所に同時中継することができた。

(3) 成果

本取組では、児童の主体性を重視するため、児童が実行委員会を組織して、企画書を書いて自主的に進めている。そうすることで、学びを自分事と捉え、意欲的な学びに繋がっている。

多くの人と出会い、郷土料理について学んだり、その食材を生み出す滋賀の農林水産業について学んだりして、郷土の人や自然、くらしや文化への愛着を深めることができた。

子どもたちは、学習を通して、学んだことを伝えていくことの大切さに気づき、多くの人と積極的に交流し実践を深めることができた。

3 エコ・スクールの取組を振り返って

本校の環境教育は、持続可能な地域づくりやそれを担う人材育成の場であると捉え、地域協働で実践を深めてきた。学校、地域、行政、研究機関が参加したエコ・スクール支援委員会を年3回実施し、プログラムの検討を行ってきた。

本年度の取組は、コカ・コーラ環境教育賞において「最優秀賞」、生物多様性アクション大賞において「特別賞SDGs賞」、低炭素杯において「文部科学大臣賞」「オーディエンス賞」、学校自慢エコ大賞において「大賞」を受賞した。



エコ・スクール支援委員会

学校名	草津市立渋川小学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.sk.ed.jp